

$$U(S,W) \underset{\gamma}{\overset{\gamma}{\succ}} U(S,N) \Leftrightarrow y_0 \underset{\gamma}{\overset{\gamma}{\succ}} (1-l)w,$$

$$U(J,W) \underset{\gamma}{\overset{\gamma}{\succ}} U(J,N) \Leftrightarrow y_0 \underset{\gamma}{\overset{\gamma}{\succ}} (1-l)w,$$

$$U(S,W) \underset{\gamma}{\overset{\gamma}{\succ}} U(J,W) \Leftrightarrow \exp(-\gamma) \underset{\gamma}{\overset{\gamma}{\succ}} 1,$$

$$U(S,N) \underset{\gamma}{\overset{\gamma}{\succ}} U(J,N) \Leftrightarrow \exp(-\gamma) \underset{\gamma}{\overset{\gamma}{\succ}} 1,$$

$$U(S,W) \underset{\gamma}{\overset{\gamma}{\succ}} U(J,N) \Leftrightarrow \exp(-\gamma) \underset{\gamma}{\overset{\gamma}{\succ}} (1-l)(y_0 + wl)/y_0,$$

$$U(S,N) \underset{\gamma}{\overset{\gamma}{\succ}} U(J,W) \Leftrightarrow \exp(-\gamma) \underset{\gamma}{\overset{\gamma}{\succ}} y_0 / [(1-l)(y_0 + wl)]$$

と簡略化される。したがって、ライフスタイルの選択の様子を図示しても、図2のような形に簡略化される。各ライフスタイルが選択される確率が、図に示された各部分の面積に対応すると考えれば（ただし、密度は一樣ではない）、この図2と図1を比較することにより、出産・育児など家事にかかる時間が短いほど別居が選択され、また、妻の就業率が高まることが示唆される。この結果は直感的にも納得しやすく、また先行研究の分析結果とも整合的である。

### 3-2 夫方、妻方の親を区別する場合

親と同居する場合、夫方、妻方の親を区別する場合も、議論を単純化すれば、前項で説明した基本モデルの考え方が基本的に適用できる。例えば、極端な場合として、夫方、妻方のいずれの親と同居しても、家事を完全に親任せにできるとしてみよう。その場合、夫方と妻方の親とでは、同居に伴う心理的負担のみが違ってくることになる。そこで、夫方、妻方の親と同居する行為をそれぞれ  $J_1$ 、 $J_2$  と標記し、それぞれに伴う心理的負担によって減殺される効用を  $\gamma_1$ 、 $\gamma_2$  としよう。ここでも、それぞれの親が同居によって受ける心理的負担（または満足度）の大きさは、 $\gamma_1$ 、 $\gamma_2$  に部分的に反映されていると解釈できる。そうすれば、どちらの親と同居するかという選択は、結局のところ、子夫婦がそれぞれの場合に得られる効用水準を比較することで決定されることになる。

以上の想定の下では、親と同居する場合の効用は、妻が就業する場合、しない場合それぞれにおいて、

$$U(J_1, W) = \alpha \ln(y_0 + wl) + \beta \ln(1-l) - \gamma_1,$$

$$U(J_2, W) = \alpha \ln(y_0 + wl) + \beta \ln(1-l) - \gamma_2,$$

$$U(J_1, N) = \alpha \ln(y_0) - \gamma_1,$$

$$U(J_2, N) = \alpha \ln(y_0) - \gamma_2$$

とまとめることができる。したがって、別居して妻が就業する場合（S, W）、しない場合（S, N）という2つのケースを合わせて、合計6つのケースがあり得る。子夫婦は、こ

の6つのライフスタイルから効用を最大にするものを選択する。そこで、3-1と同様に、それぞれのライフスタイルから得られる効用水準を比較すれば、選好順位が決定されることになる。もちろん、そのために検討すべき不等式の数 $は15本 (= {}_6C_2)$ とかなり多くなり、場合分けが煩瑣になってしまうが、原理的には3-1と同じような作業を行えばよい。

同居選択と妻の労働供給との同時決定の基本的な構図は、これまでと同様、夫の所得と同居に伴う心理的負担との相互関係で決定されることになる。しかし、同居を選択した場合、夫方と妻方のどちらの親と同居するかについては、どちらと同居すれば心理的負担が小さくて済むかという基準が加わることになる。

ただし、パラメータの組み合わせによっては、夫方の親と同居するよりは別居の方が望ましく、そして別居よりは妻方の親との同居の方が望ましいといった状況もあり得る。つまり、別居か同居かという選択がまずあり、その後で、別居の場合は夫方か妻方かという選択がある、といった単純な構造になっているわけではない。これは、妻の就業決定が絡んでくるからである。

さらに、実際には、夫方と妻方の親では子夫婦が家事を任せられる程度が異なってくるかもしれない(上のモデルで言えば、 $h$ の大きさが同居する親で異なってくる)。そうした違いをモデルに反映させることも理論的には可能である。

#### 4. 実証モデル

実証分析は、以下に述べる3つのステップで行う。

##### 4-1 Bivariate Probit Model

第1のステップは、夫方と妻方との区別を行わず、いずれも親との同居とひとまとめにした上で、同居選択と妻の就業との同時決定モデルを Bivariate Probit Model (詳細は Greene (2000)参照)で行うことである。すなわち、第  $i$  番目の子夫婦 ( $i=1, 2, \dots, n$ ) にとって、妻が就業する場合の効用から就業しない場合の効用を差し引いた値を  $z_{i1}$  とし、それが観測される変数のベクトル  $x_{i1}$  で説明される部分と誤差項  $\varepsilon_{i1}$  の和で与えられるとする。さらに、就業する場合を1、就業しない場合を0とする離散変数  $y_{i1}$  があるとしよう。同様に、親との同居選択についても、各変数の下添え字を  $i1$  から  $i2$  に置き換えて表現する(同居する場合  $y_{i2}=1$ 、別居する場合  $y_{i2}=0$ )。このとき、Bivariate Probit Model は、

$$z_{i1} = b_1'x_{i1} + \varepsilon_{i1}, y_{i1} = 1 \text{ if } z_{i1} > 0, y_{i1} = 0 \text{ otherwise,}$$

$$z_{i2} = b_2'x_{i2} + \varepsilon_{i2}, y_{i2} = 1 \text{ if } z_{i2} > 0, y_{i2} = 0 \text{ otherwise,}$$

$$i = 1, 2, \dots, n$$

で与えられる。ただし、誤差項  $\varepsilon_{i1}$ 、 $\varepsilon_{i2}$  に関しては、それぞれの平均が0、分散が1、相関係数が  $\rho$  の2変量正規分布に従うものと仮定する。 $\rho$  の推定値が0から有意に離れている場合は、妻の就業選択と同居選択との間には同時性があることになる。そして、 $\rho$  が有意にプラスであれば、妻の就業と同居が同時に選択されやすいことになる。

##### 4-2 Multinomial Logit Model

第2のステップは、妻の就業決定はとりあえず所与とした上で、①別居、②夫方の親と同居、③妻方の親と同居、という3つの選択肢からなる Multinomial Logit Model (詳細は Amemiya(1985)参照) を推定することである。いま、第*i*番目の子夫婦にとって、第*j*番目の選択肢から得られる効用を次のように表す。

$$U_{ij} = \mu_{ij} + \varepsilon_{ij}, \quad i=1, 2, \dots, n; \quad j=0, 1, 2$$

ここで、 $\mu_{ij}$  は非確率項、 $\varepsilon_{ij}$  は誤差項であり、 $\mu_{ij}$  は説明変数の線型関数であると仮定する。また、効用関数の誤差項は*i*及び*j*について独立と仮定する (McFadden(1974))。子夫婦は3つの選択肢の中から効用を最大化するものを選択することになるが、選択結果を  $y_i$  という離散変数で示すと、第*i*子夫婦が*j*という選択肢を選ぶ確率は、

$$\Pr(y_i = j) = \Pr(U_{ij} > U_{ik} \text{ for all } k \neq j)$$

と表現できる。さらに、誤差項の累積分布関数が  $\exp(-\exp(-z))$  で与えられる場合、例えば、 $j=2$  が選択される確率は、

$$\begin{aligned} \Pr(y_i = 2) &= \Pr(U_{i2} > U_{i1}, U_{i2} > U_{i0}) \\ &= \Pr(\varepsilon_{i2} + \mu_{i2} - \mu_{i1} > \varepsilon_{i1}, \varepsilon_{i2} + \mu_{i2} - \mu_{i0} > \varepsilon_{i0}) \\ &= \exp(\mu_{i2} - \mu_{i0}) / [1 + \exp(\mu_{i1} - \mu_{i0}) + \exp(\mu_{i2} - \mu_{i0})] \end{aligned}$$

となる。ここで、

$$\mu_{i1} - \mu_{i0} = b'_1 x_{i1}, \quad \mu_{i2} - \mu_{i0} = b'_2 x_{i2}$$

と置けば、

$$\Pr(y_i = 2) = \exp(b'_2 x_{i2}) / [1 + \exp(b'_1 x_{i1}) + \exp(b'_2 x_{i2})]$$

と計算できる。同様に、 $j=0$ 、 $j=1$  を選択する確率も計算される。なお、本稿ではデータの制約上、各選択肢に特有な変数は設定せず、 $x_{i0} = x_{i1} = x_{i2}$  として処理している。

この推定の問題点は、妻の就業決定を所与にしていることに加えて、誤差項の分布が選択肢に関して独立であることを仮定していることである (いわゆる I I A (Independence of Irrelevant Alternatives) の仮定)。

#### 4-3 Multivariate (Trivariate) Probit Model

第3のステップは、夫方の親との同居・別居、妻方の親との同居・別居、妻の就業・不就業という3つの選択肢が同時決定されるものと考え、Multivariate (この場合は Trivariate) Probit Model を適用することである。このモデルの構造は、第1ステップの Bivariate Probit Model と基本的に同じである。すなわち、上に説明した Bivariate Probit Model を構成する2本の式のうち、第2式を夫方の親との同居選択を説明する式と読み替え、新たに、妻方の親との同居選択を説明する、

$$z_{i3} = b'_3 x_{i3} + \varepsilon_{i3}, \quad y_{i3} = 1 \text{ if } z_{i3} > 0, \quad y_{i3} = 0 \text{ otherwise}$$

という式を付け加えて推定する。ここでは、誤差項が3つになるが、それらがそれぞれ平均ゼロ、分散1及び相関係数 ( $\rho_{12}$ ,  $\rho_{13}$ ,  $\rho_{23}$ ) で設定される3変量正規分布に従うものと想定される。

この推定の問題点は、夫方の親との同居と妻方の親との同居が同時にはまったく起こりえないという関係を、モデルに反映できないことである。その一方で、Multinomial Logit Model の場合とは異なり、I I Aを仮定する必要はないというメリットがある。

## 5. データ

本稿で実証分析に使用するデータは、1992年に旧厚生省人口問題研究所が実施した第10回『出生動向基本調査』夫婦票である。この調査の対象は、無作為抽出法により抽出された調査区内に居住する妻の年齢50歳未満の夫婦である。調査項目は、夫と妻それぞれの基本属性（出生年月、結婚時期、学歴、職業、労働時間、年収）に加え、妊娠・出産経験、希望子供数、兄弟数、父親の職業、母親の就業状態、妻の両親の生死の別など多岐に渡っている。そのなかで同居・別居状態を把握する変数として、「現在住んでいる住居」の設問を利用した。設問の内容は以下の通りである。

問 あなた方ご夫婦は、現在住んでいる住居について（ご両）親の援助を受けられましたか。あてはまる番号を一つ選んでください。

- (1) あなたの親の家に住んでいる
- (2) 夫の親の家に住んでいる
- (3) あなたの親の土地に自分たちの家を建てた
- (4) 夫の親の土地に自分たちの家を建てた
- (5) 自分たちの持ち家を取得するために、親の資金援助を受けた
- (6) 家賃（権利金などを含む）について親の援助を受けた
- (7) 親の援助は受けなかった
- (8) その他

本稿ではこのうち、(1)と(2)を「同一家屋での同居」とし、(3)と(4)を「同一敷地内での同居」として扱う。

説明変数と各変数の要約統計量は表1に示す通りである。それぞれの父親の職業は、定年退職または死亡している場合は在職中の主な職業を選ぶようになっている。母親の就業状態は子夫婦が結婚する前の状態を指しており、現在のものではないことに注意が必要である。母親が定年退職または死亡している場合には、在職中の主な状態を選ぶようになっている。既存研究では親の経済状態を示す変数として親の所得を用いている例が多いが、『出生動向基本調査』では親の所得を直接把握することはできない。そこで本稿では、在職中の主な職業状態が現在の経済力を表していると考え、説明変数に用いた。現役時代の職種が引退後の年金や資産状態に強い関連をもっていることは清家・山田(1996)でも示されており、この仮定はあながち不適切なものではないと思われる。

『出生動向基本調査』から得られる変数に加え、ここでは就業決定と同居決定の双方に

影響する変数として県別の有効求人倍率と保育所定員率(保育所定員/未就学児童数\*100)を使用する<sup>2</sup>。

推定に使用したサンプルは、調査時点で妻の年齢が25歳以上の夫婦5534組である。妻の両親については調査時点での生存状況が把握できるので、両親とも死亡している場合にはサンプルから除外した。夫の両親の生存状況は不明だが、別の設問から結婚前に両親とも死亡しているケースを把握できるので、その場合はサンプルから除外した。子夫婦からみた親との同居選択の分析は、親が存命であるかどうかを識別できないことが重大な限界点として指摘されている(岩本・福井(2001))。本稿ではこの問題に、妻の親については完全に、また、夫の親についても不完全ながらも対処できている。残るノイズは結婚してから調査実施までの間に夫の父母がともに死亡しているケースであるが、妻の年齢が50歳未満の夫婦を調査対象としているので、他の既存調査と比較して相対的に親の年齢も若いとみられる。したがって、不適当なサンプルが混じる割合は低いものと考えられる。

## 6. 推定結果

### 6-1 同居選択と妻の就業の同時決定(夫方、妻方の親を区別しない場合)

まず、4-1で説明した第1ステップ、すなわち、夫方、妻方の親を区別しないで、親との同居選択と妻の就業との同時決定をBivariate Probit Modelで推定した結果を見てみよう。推定結果は、表2にまとめてあるが、ここから次のような事実が指摘できる。

第1に、3-1で行った理論的検討や既存研究による分析結果と整合的なものとしては、例えば、夫の所得が高いほど妻の就業率は低く、親との別居率が高まることが指摘できる。

第2に、妻の就業率を高める要因としては、妻の学歴が高いこと、就学前の子供が居ないこと、妻の年齢が高いこと、保育サービスへのアクセスが良いことが上げられる。これらの結果は既存研究と整合的である。

第3に、親との同居を促進する要因としては、住宅の部屋数が多いこと、非人口集中地区であること(市部でないこと)があげられる。住宅が広い場合は同居する場合もプライバシーが守られやすく、また、非人口集中地区では住宅の建て方にもゆとりがあるため、同居による心理的負担が少ないことが反映しているのだとみられる。なお、既存研究では大都市ダミーが同居に有意にプラスの影響を与えており、就業機会の豊富さが同居を容易にしているのだと解釈されてきた(岩本・福井(2001))。しかし本稿では就業機会の豊富さを表す変数として別個に有効求人倍率を含めており、それは同居に有意にプラスの影響を与えている。したがって、ここでの市部(人口集中地区)ダミーは、住宅事情や通勤事情といった、就業機会とは別の効果をとらえているものと考えられる。長男あるいは男の兄弟のいない長女であることは同居確率を有意に高めている。しかしながら、長男長女同士の場合は有意に別居する確率が高まる。また、サンプルを35歳未満に限定して推定した結果では、保育所定員率は有意に同居確率を引き下げる要因となっており、親との同居と保

<sup>2</sup> 保育所定員率を保育サービスの指標として用いると、出産のサンプル・セレクション・バイアスを含みうることは滋野・大日(1999)で指摘されている。しかしながら、滋野・大日(1999)の推定では出産の意思決定に与える保育所定員率の影響は有意でなく、また、就業決定に与えるマージナル効果は説明変数の選択によりかなり差がでている。

育サービスへのアクセスが代替関係にあることが示唆される。

第4に、同居選択と妻の就業決定の相関関係は、有意に確認され、とくに妻の年齢が35歳未満の年齢層で誤差項の相関係数が高い。また、同一敷地内での同居も含めるモデルは同一家屋の同居に限ったモデルと比較して誤差項の相関係数が高い。すなわち、育児負担が大きい若年層の妻の就業決定において、準同居を含めた同居選択は重要な影響をもっていることが確認された。

## 6-2 夫方、妻方の親との同居選択（妻の就業選択を所与とした場合）

表1では、使用変数の平均値を同居別状態別にみている。表からは、同居世帯と非同居世帯の間だけでなく、同居世帯の間にも夫方か妻方かで違いがあることがわかる。4-2で説明した Multinomial Logit Model に基づく推計結果は表3に示す通りであるが、ここから次のような事実が確認される。

まず、子夫婦の属性が同居選択に及ぼす影響に注目してみよう。第1に、子夫婦の夫の所得は、同居に対して有意に負の影響を与えており、既存研究と整合的な結果となっている。ただしその影響度は夫の親との同居についてより大きく、妻の年齢が35歳未満のサンプルで大きい。また、妻の就業状態については、就業している場合に有意に夫の親と同居する確率が高まる。一方、妻の就業状態が妻の親との同居に与える影響は有意でない。

第2に、子夫婦の学歴が同居に及ぼす影響度とその方向は、夫と妻で異なる。夫の親との同居について、夫の学歴は、高卒や高専短大卒である場合に同居確率を有意に高めているが、妻が大卒以上の場合には同一家屋における同居確率を有意に引き下げている。一方、妻の親との同居については、夫が高学歴なほど別居を選択する方向に影響する半面、妻が高学歴なほど同居確率が高まる傾向にある。要するに、学歴はパートナーの親との同居を忌避する要因となっている。

第3に、兄弟関係の影響度と方向も夫婦で異なっている。夫が長男であったり、妻が男兄弟のいない長女であったりするの場合、自分の親との同居に有意に正の影響を与える。しかしながら、長男長女同士の場合、夫の親との同居には有意な影響が見られないものの、妻の親との同居には有意に負の影響を与えており、別居を選択する傾向にある。

第4に、就学前児童とりわけ乳幼児の存在は、夫の親との同居確率をとくに35歳未満のサンプルで有意に高めるが、妻の親との同居については有意な影響は及ぼしていない。

一方、双方の親の属性が同居選択に及ぼす影響についてはどうか。第1に、双方の父親の属性は異なる影響を与えている。夫の父親が専門管理職であったり自営業であったりする場合には、妻の親との同居に有意に負の影響を与えている。全く逆に、妻の父親が専門管理職ないし自営業の場合、夫の親との同居に有意に負の影響を与えている。既存研究の結果では、所得の高い親ほど子と別居する傾向にあることが明らかにされている。しかし、本稿の推計結果では、父親の職業から推測される経済力が、自分の子との同居に及ぼす影響は有意でない。この結果は、どちらかの親に比較的経済力がある場合、子夫婦は、その親と同居するオプションを放棄するような行動を控えることを示唆しているのかもしれない。

第2に、母親の就業状態の影響も興味深い。夫方・妻方を問わず、子夫婦の結婚前に母親がパートタイマーである場合、その親と同居する確率は有意に低くなる。これは2つの解釈が可能であろう。まず、この変数が親の所得の高さを示している可能性である。他の

条件を一定として、共稼ぎの親世帯の所得は高いので、高所得の親ほど別居を選択する確率が高いという既存研究と整合的な結果を示していると解釈できる。もう一つは、母親の就業状態が家庭内生産のフロンティアを示している可能性である。母親が無職の場合は同居によって家事・育児といった家庭内生産を拡大したり、妻が市場労働に従事する時間を増やしたりすることが可能であるが、有業の場合はそうした便益が少ない。そのため別居を選択する確率が高まるという解釈もできよう。35歳未満のサンプルで母親のパート就労が同居確率をとくに引き下げていることからこの解釈の妥当性が示唆される。なお、母親がパート就労している場合だけ、係数が有意で、常勤の場合は有意でないのは、子夫婦の結婚前に常勤であり、現在は引退している母親がいるためかもしれない。

その他の変数としては、居住県の有効求人倍率が、妻方との同一家屋での同居を除き、有意に正の影響を及ぼしていることが注目される。既存研究で指摘されていることと同様に、居住地での就業機会に恵まれることが同居の重要な要因となっている。保育所定員率は、35歳未満のサンプルで有意に夫の親との同居確率を引き下げており、そのほかのケースでは有意ではないものの係数は皆、負である。これは保育サービスと親との同居が代替関係にあることを示唆するものと考えられる。

なお、同一家屋での同居のみを被説明変数とするモデルと同一敷地内での同居も含むモデルを比較すると、夫の所得や学歴、双方の父親の職業など同一家屋での同居に対して負の効果をもっていた説明変数の各係数がおしなべて小さくなっている。つまり、同一敷地内での同居の場合は、プライバシーの減少度合など同居に伴う心理的負担はより小さく評価されている。戦略的遺産動機との関連では、完全な同居と比較して同一敷地内での同居の場合は囲い込みの度合が小さく、実子との接触機会を購入する可能性は高い上、場合によっては親が子世帯に同居ないし滞在して介護してもらうことも可能である。そのため、相手方の親との同居に対する負の影響が弱まるのものとみられる。

ところで、すでに4-2で述べたように、この推定方法についてはいわゆる I I A が想定されているという問題がある。そこで、I I A が成立するという帰無仮説を検証するために、3つの選択肢の中から1つを除外した推計を行い、3選択肢での推計結果と比較した Hausman 検定を行った。その結果、

- ・ 夫方同居と妻方同居のみのモデル： $\chi^2 = 1.42$  帰無仮説を採択
- ・ 別居と夫方同居のみのモデル： $\chi^2 = -22.69$  検定不能
- ・ 別居と妻方同居のみのモデル： $\chi^2 = 90.01$  帰無仮説を棄却

という検定結果を得た。そのため、表3にまとめた推計結果については統計上のバイアスがかかっている可能性が高い<sup>3</sup>。

<sup>3</sup> この問題を解決する方法としては、IIAの仮定を緩めた Nested Logit Model による推定があり得る。ただしネスティングの仕方には何通りか考えられるため、厳密には Amemiya and Shimono (1989) で行われているように、様々な選択肢間での誤差項の相関関係を考慮した複数のモデルによる検討をする必要がある。

## 7. 結論

本稿では、子夫婦および夫方・妻方それぞれの親の情報を含めた同居選択の分析を行った。分析にあたっては、妻の就業選択との同時決定を想定するとともに、同居と準同居の両方のケースについても考慮した。

実証分析の主要な結果は、次のようにまとめることができる。第1に、同居選択を検討する場合、妻の労働供給との同時決定を考慮する必要がある。とりわけ若い夫婦の場合は子育ての負担が重いこともあり、ライフスタイルの選択に際しては、親との同居と妻の就業をめぐる選択は複雑に絡み合うものと考えられる。総じて見ると、妻の就業率と同居率との間には正の相関関係が認められ、とくに妻が子育てで忙しい若年層で相関関係は強い。また、地域の保育サービスへのアクセスは、同居と代替関係にあることが示唆された。

しかし、第2に、そのような同時決定を念頭に置いたモデルを推計しても、先行研究とほぼ整合的な結果が得られることが分かった。子世代の夫の低所得や地域の就業機会の豊富さは親との同居確率を高める一方、妻の学歴が高いほど、子育ての制約が少ないほど、また、夫が低所得であるほど妻の就業率が高まるといった、これまでの研究で示されてきた結果は本稿の分析結果からも再確認されている。

第3に、夫方と妻方の親では、同居・別居の決定要因が大きく異なることが分かった。例えば、夫（妻）が高学歴だと妻方（夫方）の親との別居を望むとか、夫方（妻方）の父親の経済力が高いと、妻方（夫方）の親との同居が抑制されるといった、興味深い傾向が明らかにされた。

第4に、準同居選択の結果を同居選択の場合と比較すると、親との同居に対して負の効果をもっていた説明変数の各係数がおしなべて小さくなる。つまり、同一敷地内での同居の場合は、同居に伴う心理的負担はより小さく評価されていることが分かった。

しかし、本稿はなお次のような課題を残している。第1に、本稿では父親の職業や母親の就業状態を通じて間接的に親の経済状態を把握するにとどまっている。戦略的遺産動機仮説の検証では親の資産保有に関する情報が重要であるが、第10回『出生動向基本調査』ではこれに関連するデータがないため、分析を断念した。

第2に、内生性の問題がある。部屋数は同居選択に重要な変数となっているが、同居するために大きな家に建て替えるという例も多い。また、就学前児童の影響についても、出産するために同居するといった同時決定関係が背後にあるかもしれない。

第3に、本稿では技術的な問題から Multinomial Probit Model の推定ができなかった。

これらは今後の課題としたい。

以上



## 補論 同居選択と母親の就業形態の選択

本文での分析では、同居と妻の就業との関係を取り上げたものの、就業した場合の就業形態に関しては触れなかった。しかしながら、同居が常勤就業・パート就業・自営就業といった就業形態の選択にも大きな影響を及ぼしていることは永瀬(1997)で示されている通りである。また、本文で示したように、同居と就業の同時決定関係は、子育て負担が大きいと思われる35歳以下のサンプルでとくに顕著であった。

そこでここでは、同別居状態はひとまず所与とした上で、とくに子供のいる女性にサンプルを限定して、夫方・妻方の親との同居が就業形態の選択に与える影響を分析する。説明変数は、就業決定のprobitで用いたものと同じであるが、保育に関する政策変数として、県別の待機児童率(保育所定員に対する待機児童数の割合)も含めた。推定方法は、無職、パート就業、常勤就業、自営就業の4つの形態から1つを選択するMultinomial Logit Modelである。

推定に用いたサンプルは、25歳以上50歳未満の子供のいる有配偶女性で、夫は正規雇用者に限定している。はじめに、自営業を除く3つの選択肢で推定した結果が付表1に示してある。主な発見は以下のようにまとめられよう。

第1に、夫が高所得の場合、いずれの就業形態でも就業する確率は有意に低下するが、これは既存研究と整合的である。パートタイマーについては、妻が35歳以上の場合には夫の所得の係数が小さい半面、常勤就業に与える夫の所得の影響は、年齢による違いがない。

第2に、妻の学歴の影響が就業形態によって異なる。妻が高学歴な場合、パート就業の確率を有意に引き下げる一方で、常勤就業する確率は有意に高まる。とくに35歳未満の年齢階層では、常勤就業に与える学歴の影響が顕著である。夫の学歴は、いずれの年齢階層でも有意でない。また、夫の長時間労働は35歳未満のパート就業確率を有意に引き上げる半面、常勤就業には影響を与えていない。

第3に、乳幼児の存在はいずれの就業形態についても有意に就業確率を引き下げる傾向にあるが、とくにパート就業の場合に係数が大きい。これは乳幼児の存在が留保賃金を引き上げるためであろう。その一方で、保育所定員率が高い場合、パート、常勤ともに就業確率は有意に高まる。ただし35歳以上のパート就業に対しては、保育環境は影響していない。また、待機児童率とそのクロス項も有意な影響は観察されなかった。地域の労働力需給が逼迫している場合(有効求人倍率が高い場合)、35歳以上のサンプルで就業確率が有意に高まるが、とくにパート就業は労働力需給に敏感に反応している。

最後に、親との同居は、常勤就業に大きな影響を与えており、とくに35歳未満の年齢層における妻方の親との同居にその傾向が強い。日本ではまだ育児と就業の両立が容易でなく、保育サービスの利用可能性も限られている。そうしたなかで子供を持つ女性が育児負担の最も重い時期に常勤就業する場合、親、とくに実の親の支援が不可欠であることを示唆するものといえよう。

付表2は、自営業に就いている妻を含めたサンプルで4選択肢の推定をした結果である。ここから得られる追加的な情報は以下の通りである。

第1に、有効求人倍率や保育所定員率は自営就業に有意な影響を及ぼしていない。自営就業は基本的に労働力需給の影響を受けず、また、職場と自宅が近い(あるいは同一)なことも多く、育児と仕事の両立は雇用就業と比較して容易と言われている。そうしたこと

がこの推定結果に現れているのだと解釈される。

第2に、親との同居は自営就業の場合にもっとも大きな影響を及ぼしている。これは、親の事業を手伝うために同居するといった状況があるためであろう。

このように、親との同居は妻の就業形態の選択にも重要な影響を及ぼしており、また、影響の度合も夫方・妻方で異なることが確認された。今後は、同居選択と就業形態の選択の同時決定関係も考慮する必要があるだろう。

以上

## 参考文献

- Amemiya, Takeshi (1985) *Advanced Econometrics*, Cambridge: Harvard University Press.
- Amemiya, Takashi and Keiko Shimono (1989) "An Application of Nested Logit Models to the Labor Supply of the Elderly," *The Economic Studies Quarterly*, Vol.40, No.1, pp.14-22.
- Börsch-Supan, Axel, Jagadeesh Gokhale, Laurence J. Kotlikoff, and John Morris (1992) "The Provision of Time to the Elderly by Their Children," in D. A. Wise ed., *Topics in the Economics of Aging*, Chicago: University of Chicago Press, pp.109-34.
- Ettner, Susan L. (1996) "The Opportunity Costs of Elder Care," *Journal of Human Resources*, Vol.31(1), pp.189-205.
- Greene, William (2000) *Econometric Analysis*, Englewood Cliffs: Prentice Hall.
- Hayashi, Fumio (1997) *Understanding Saving: Evidence from the United States and Japan*, Cambridge: MIT Press.
- Kotlikoff, Laurence J. and John N. Morris (1990) "Why Don't the Elderly Live with Their Children? A New Look," in D. A. Wise ed., *Issues in the Economics of Aging*, Chicago: University of Chicago Press, pp.149-69.
- McFadden, Daniel L. (1974) "Conditional Logit Analysis of Qualitative Choice Behavior," in P. Zarembka, ed., *Frontiers in Econometrics*, Academic Press, pp.105-42.
- Nakamura, Jiro and Atsuko Ueda (1999) "On the Determinants of Career Interruption by Childbirth among Married Women in Japan," *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol. 13, pp.73-89.
- Ohtake, Fumio (1991) "Bequest Motives of Aged Households in Japan," *Recherche Economique*, Vol.45, No.2-3 (April-September), pp.283-306.
- Pezzin, Liliana E. and Barbara S. Schone (1999) "Intergenerational Household Formation, Female Labor Supply and Informal Caregiving," *Journal of Human Resources*, Vol.34 (3), pp.475-503.
- Wolf, Douglas A. and Beth J. Soldo (1994) "Married Women's Allocation of Time to Employment and Care of Elderly Parents," *Journal of Human Resources*, Vol.29(4), pp.1259-76.
- 岩本康志・福井唯嗣 (2001) 「同居選択における所得の影響」『日本経済研究』No.42, pp.21-43.
- 厚生省人口問題研究所(1993) 『平成4年第10回出生動向基本調査』第I報告書.
- 宮島 洋(1992) 『高齢化時代の社会経済学』岩波書店.
- 永瀬伸子(1997) 「女性の就業選択」中馬宏之・駿河輝和編『雇用慣行の変化と女性労働』東京大学出版会, pp.279-312.
- 大石亜希子・小塩隆士(2001) 「同居選択と妻の就業決定：どちらの親と同居するのか？」mimeo.
- 滋野由紀子・大日康史(1999) 「保育政策が出産の意思決定と就業に与える影響」『季刊社会保障研究』 Vol.35, No.2, pp.192-207.

図1 同居・別居選択と妻の就業決定

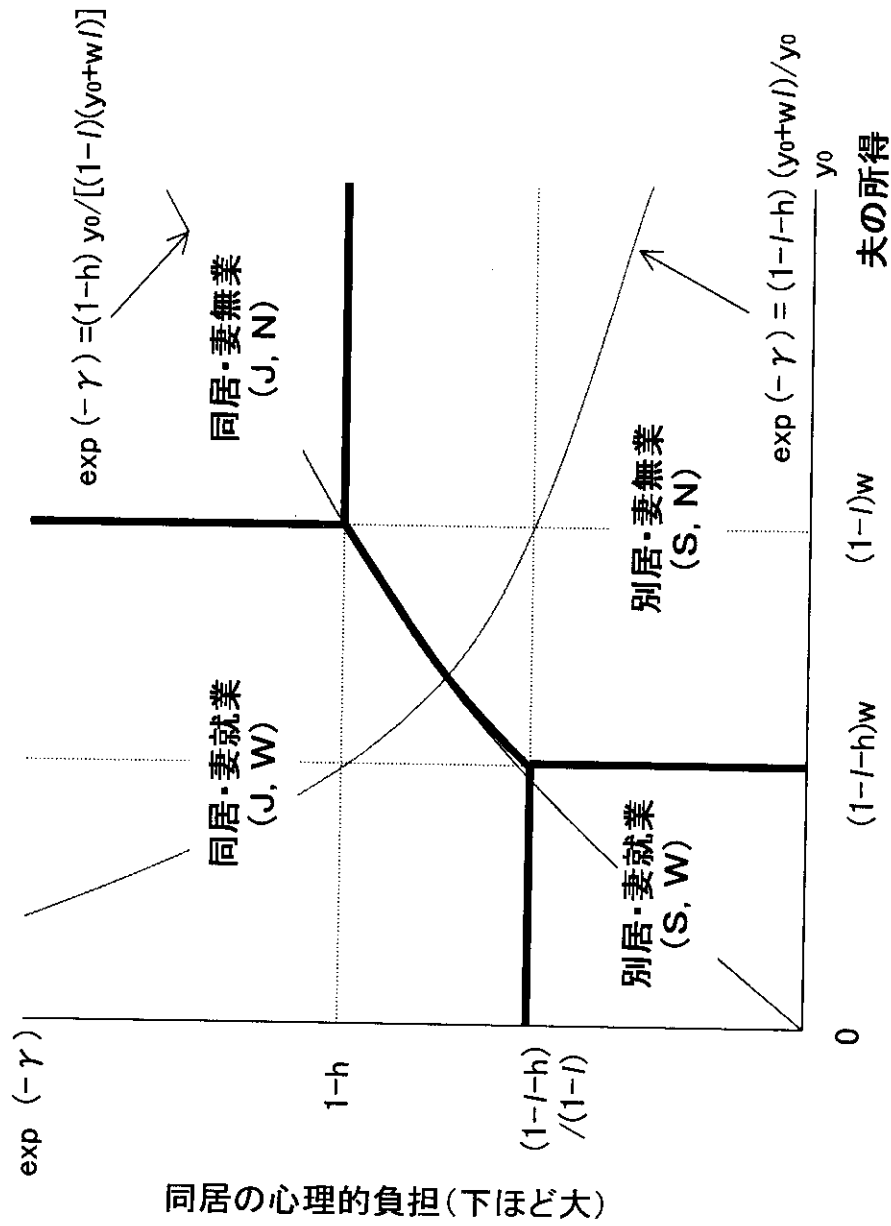


図2 同居・別居選択と妻の就業決定(家事時間 $h=0$ の場合)

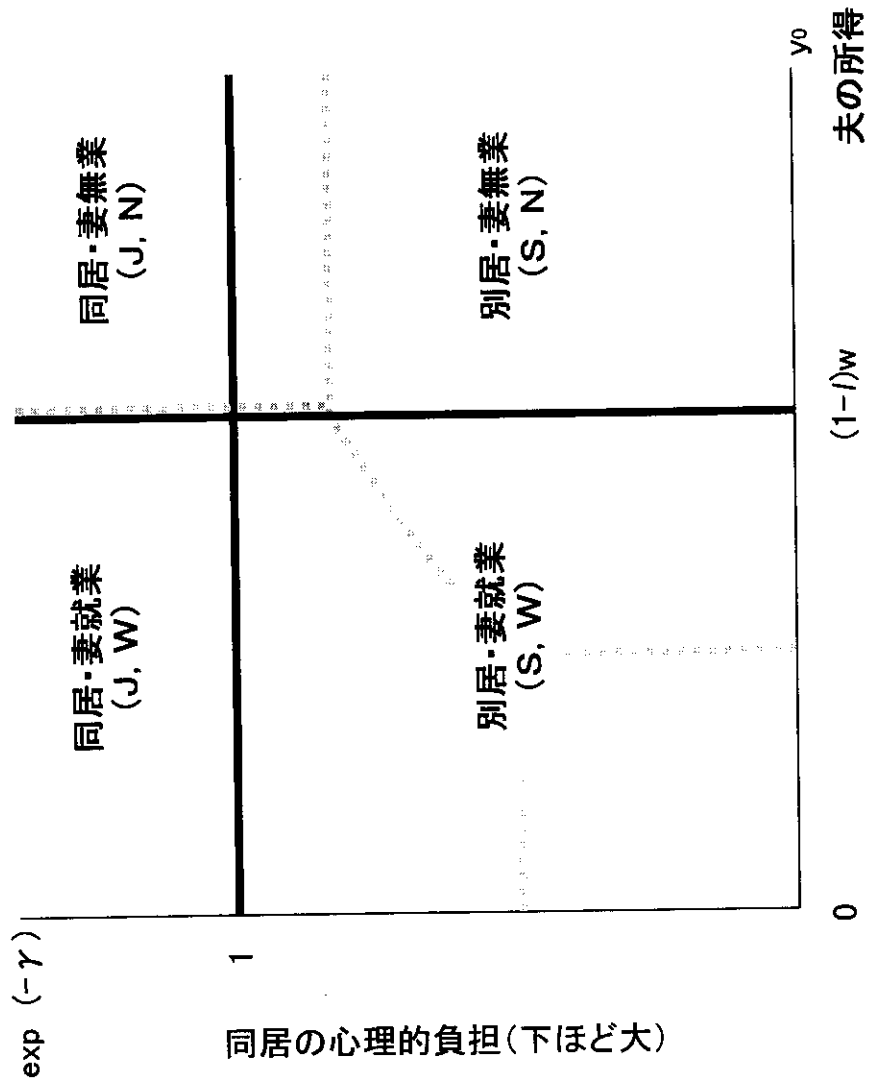


表1 使用変数の要約統計

	全サンプル(5,534)				同一家庭での同居		同一敷地内での同居を含む	
	平均	標準偏差	最大値	最小値	非同居世帯 (4,213)	夫の親との同居 居世帯(1,029)	非同居世帯 (3,602)	夫の親との同居 居世帯(1,448)
現在の住居の部屋数	5.168	2.233	1.00	12.00	4.529	7.253	4.245	6.968
市部	0.807	0.395	0.00	1.00	0.858	0.641	0.880	0.662
h_age	39.934	7.263	23.00	69.00	40.056	39.233	39.650	40.412
妻の現在年齢	37.110	6.532	25.00	49.00	37.230	36.706	36.882	37.997
w_age	545.555	234.839	50.00	1100.00	571.042	461.419	569.767	492.369
妻の所得	6.198	0.490	3.91	7.00	6.253	6.016	6.250	6.083
夫の対数所得	49.219	13.044	0.00	66.00	49.083	49.922	49.209	49.453
夫の労働時間	0.210	0.407	0.00	1.00	0.218	0.180	0.217	0.211
妻・パート(基準:無職)	0.244	0.429	0.00	1.00	0.218	0.333	0.206	0.320
妻・常勤	0.094	0.292	0.00	1.00	0.075	0.162	0.064	0.157
妻・自営業	0.458	0.498	0.00	1.00	0.439	0.521	0.442	0.492
夫・高卒(基準:中卒)	0.076	0.264	0.00	1.00	0.075	0.061	0.073	0.085
夫・高専短大卒	0.338	0.473	0.00	1.00	0.359	0.282	0.362	0.298
夫・大卒以上	0.528	0.499	0.00	1.00	0.513	0.586	0.514	0.564
妻・高卒(基準:中卒)	0.270	0.444	0.00	1.00	0.275	0.245	0.276	0.249
妻・高専短大卒	0.101	0.302	0.00	1.00	0.111	0.084	0.112	0.075
妻・大卒以上	1.823	0.941	0.00	6.00	1.755	2.061	1.697	2.074
子供数	0.552	0.497	0.00	1.00	0.494	0.858	0.494	0.758
夫・あととり	0.158	0.365	0.00	1.00	0.148	0.094	0.150	0.099
妻・あととり	0.079	0.269	0.00	1.00	0.077	0.078	0.080	0.074
夫・あととり×妻・あととり	0.226	0.418	0.00	1.00	0.226	0.231	0.226	0.235
夫・農林以外の自営業(基準:事務)	0.239	0.426	0.00	1.00	0.254	0.197	0.261	0.202
夫・専門管理職	0.144	0.351	0.00	1.00	0.148	0.124	0.150	0.126
夫・事務販売職	0.148	0.355	0.00	1.00	0.151	0.132	0.157	0.151
夫・現場労働者	0.028	0.166	0.00	1.00	0.030	0.024	0.029	0.027
夫・無職	0.220	0.415	0.00	1.00	0.228	0.194	0.228	0.202
妻・農林以外の自営業(基準:事務)	0.251	0.433	0.00	1.00	0.268	0.183	0.276	0.192
妻・専門管理職	0.153	0.360	0.00	1.00	0.156	0.133	0.159	0.140
妻・事務販売職	0.157	0.364	0.00	1.00	0.158	0.158	0.160	0.156
妻・現場労働者	0.019	0.135	0.00	1.00	0.019	0.020	0.018	0.021
妻・無職	0.129	0.335	0.00	1.00	0.137	0.090	0.146	0.089
夫母・パート(基準:無職)	0.114	0.318	0.00	1.00	0.112	0.125	0.114	0.119
夫母・常勤	0.388	0.487	0.00	1.00	0.355	0.525	0.341	0.508
夫母・自営業	0.143	0.350	0.00	1.00	0.151	0.118	0.159	0.118
妻母・パート(基準:無職)	0.141	0.348	0.00	1.00	0.141	0.131	0.146	0.124
妻母・常勤	0.383	0.486	0.00	1.00	0.356	0.487	0.337	0.479
妻母・自営業	1.450	0.495	0.40	2.40	1.430	1.519	1.414	1.522
有効求人倍率								
yuuko								
平均					7.027	平均	平均	平均
平均					6.649	平均	平均	平均
平均					0.700	平均	平均	平均
平均					40.612	平均	平均	平均
平均					37.952	平均	平均	平均
平均					524.484	平均	平均	平均
平均					6.151	平均	平均	平均
平均					48.592	平均	平均	平均
平均					0.211	平均	平均	平均
平均					0.298	平均	平均	平均
平均					0.126	平均	平均	平均
平均					0.477	平均	平均	平均
平均					0.066	平均	平均	平均
平均					0.287	平均	平均	平均
平均					0.291	平均	平均	平均
平均					0.101	平均	平均	平均
平均					2.014	平均	平均	平均
平均					0.370	平均	平均	平均
平均					0.397	平均	平均	平均
平均					0.087	平均	平均	平均
平均					0.196	平均	平均	平均
平均					0.184	平均	平均	平均
平均					0.159	平均	平均	平均
平均					0.025	平均	平均	平均
平均					0.217	平均	平均	平均
平均					0.236	平均	平均	平均
平均					0.151	平均	平均	平均
平均					0.138	平均	平均	平均
平均					0.014	平均	平均	平均
平均					0.122	平均	平均	平均
平均					0.105	平均	平均	平均
平均					0.380	平均	平均	平均
平均					0.103	平均	平均	平均
平均					0.157	平均	平均	平均
平均					0.438	平均	平均	平均
平均					1.511	平均	平均	平均

表2 同居と就業の同時決定モデル(Bivariate Probit 推定)

	25~49歳		25~49歳		25~34歳		25~34歳	
	同居		同居含む		同居		同居含む	
	係数	標準偏差	係数	標準偏差	係数	標準偏差	係数	標準偏差
(同居・別居決定)								
妻の現在年齢	-0.022 **	0.008	-0.024 ***	0.008	-0.007	0.019	-0.019	0.018
妻・高卒(基準:中卒)	0.047	0.087	0.033	0.079	-0.126	0.224	-0.117	0.215
妻・高専短大卒	-0.012	0.099	0.028	0.091	-0.121	0.232	-0.112	0.223
妻・大卒以上	-0.109	0.124	-0.028	0.112	-0.256	0.260	-0.147	0.246
夫・高卒(基準:中卒)	0.046	0.078	0.004	0.072	0.109	0.159	0.215	0.156
夫・高専短大卒	0.033	0.110	0.133	0.101	0.098	0.194	0.413 **	0.189
夫・大卒以上	-0.075	0.092	-0.013	0.084	-0.212	0.174	0.026	0.170
夫の現在年齢	-0.004	0.007	0.003	0.006	0.033 ***	0.012	0.034 ***	0.011
夫の対数所得	-0.619 ***	0.050	-0.508 ***	0.048	-0.720 ***	0.100	-0.609 ***	0.097
子供数	0.025	0.032	0.094 ***	0.029	-0.084	0.082	0.032	0.078
子供数×0~2歳	0.046	0.035	-0.053	0.034	0.123 *	0.071	0.022	0.069
子供数×3~5歳	0.049	0.032	0.018	0.030	0.122 *	0.071	0.070	0.068
部屋数	0.344 ***	0.012	0.392 ***	0.012	0.417 ***	0.021	0.488 ***	0.023
市部	-0.217 ***	0.055	-0.307 ***	0.053	-0.230 ***	0.099	-0.177 *	0.099
夫・長男	0.765 ***	0.055	0.480 ***	0.047	0.742 ***	0.103	0.450 ***	0.091
妻・長女(兄弟なし)	0.713 ***	0.087	0.423 ***	0.082	0.601 ***	0.154	0.351 ***	0.145
長男×長女(兄弟なし)	-0.791 ***	0.118	-0.485 ***	0.113	-0.603 ***	0.193	-0.328 *	0.184
夫父・農林以外の自営業(基準:事務職)	0.008	0.070	-0.067	0.065	0.274 **	0.133	0.181	0.128
夫父・専門管理職	-0.035	0.077	-0.111	0.072	0.193	0.142	0.147	0.137
夫父・専務販売職	-0.019	0.084	-0.083	0.078	0.125	0.151	0.104	0.146
夫父・専務販売職	-0.026	0.083	-0.132 *	0.078	-0.049	0.148	-0.030	0.143
夫父・現場労働者	-0.303 *	0.156	-0.106	0.137	0.073	0.236	0.143	0.233
夫父・無職	-0.162 **	0.071	-0.154 **	0.066	-0.207	0.133	-0.155	0.130
妻父・農林以外の自営業(基準:事務職)	-0.199 **	0.078	-0.202 ***	0.072	-0.272 *	0.145	-0.264 *	0.142
妻父・専門管理職	-0.092	0.083	-0.048	0.078	-0.121	0.153	-0.054	0.151
妻父・専務販売職	-0.130	0.082	-0.082	0.077	-0.134	0.146	-0.042	0.144
妻父・現場労働者	-0.144	0.175	-0.094	0.162	-0.005	0.289	-0.030	0.287
妻父・無職	-0.200 **	0.079	-0.249 ***	0.072	-0.224 *	0.119	-0.171	0.113
夫母・パート(基準:無職)	-0.060	0.078	-0.040	0.072	-0.016	0.115	0.040	0.111
夫母・常勤	0.023	0.059	-0.032	0.055	-0.099	0.106	-0.082	0.101
夫母・自営業	-0.163 **	0.077	-0.166 **	0.070	-0.101	0.119	-0.174	0.113
妻母・パート(基準:無職)	-0.084	0.073	-0.152 **	0.068	0.058	0.115	-0.004	0.110
妻母・常勤	-0.042	0.063	0.022	0.057	0.003	0.116	0.031	0.111
妻母・自営業	0.151 ***	0.047	0.250 ***	0.043	0.181 **	0.080	0.202 ***	0.076
有効求人倍率	-0.003	0.003	-0.002	0.002	-0.010 **	0.005	-0.010 **	0.005
保育所定員率	1.745 ***	0.349	1.123 ***	0.330	0.558	0.762	0.096	0.738
定数項								
(雇用就業・不就業決定)								
妻の現在年齢	0.034 ***	0.006	0.034 ***	0.006	0.036 **	0.015	0.037 **	0.015
w_age								

妻・高卒(基準:中卒)	_jwedu_2	0.128*	0.072	0.127*	0.072	0.144	0.181	0.143	0.181
妻・高専短大卒	_jwedu_3	0.090	0.082	0.089	0.082	0.144	0.187	0.141	0.187
妻・大卒以上	_jwedu_4	0.250**	0.098	0.250**	0.098	0.437**	0.205	0.433**	0.205
夫・高卒(基準:中卒)	_jhedu_2	0.070	0.066	0.071	0.066	0.110	0.129	0.111	0.129
夫・高専短大卒	_jhedu_3	0.089	0.091	0.089	0.091	0.112	0.157	0.113	0.157
夫・大卒以上	_jhedu_4	-0.067	0.076	-0.066	0.076	-0.073	0.140	-0.073	0.140
夫の現在年齢	_h_age	-0.004	0.005	-0.004	0.005	0.005	0.009	0.004	0.009
夫の対数所得	_hinc	-0.575***	0.046	-0.574***	0.046	-0.610***	0.080	-0.610***	0.080
子供数	children	0.070***	0.025	0.070***	0.025	-0.001	0.064	-0.002	0.064
子供数×0~2歳	_jkidXchi_1	-0.444***	0.030	-0.444***	0.030	-0.433***	0.058	-0.433***	0.058
子供数×3~5歳	_jkidXchi_a1	-0.236***	0.026	-0.236***	0.026	-0.197***	0.058	-0.196***	0.058
部屋数	rooms	0.084***	0.010	0.084***	0.010	0.070***	0.016	0.070***	0.016
市部	city	-0.104**	0.050	-0.104**	0.050	-0.203**	0.083	-0.202**	0.083
夫・真男	_jheir_1	0.039	0.042	0.039	0.042	0.091	0.073	0.090	0.073
妻・長女(兄弟なし)	_jwheir_1	0.060	0.072	0.061	0.072	0.037	0.118	0.039	0.118
長男×長女(兄弟なし)	_jhneXwhe_1	-0.088	0.100	-0.089	0.100	-0.034	0.151	-0.036	0.151
夫父・農林以外の自営業(基準:事務職)	_jhdad_2	0.013	0.058	0.012	0.058	0.103	0.102	0.104	0.102
夫父・専門管理職	_jhdad_3	0.002	0.063	0.001	0.063	0.169	0.109	0.168	0.109
夫父・事務販売職	_jhdad_4	0.091	0.069	0.090	0.069	0.113	0.115	0.112	0.115
夫父・現場労働者	_jhdad_5	0.003	0.068	0.002	0.068	0.092	0.114	0.091	0.114
夫父・無職	_jhdad_6	0.177	0.120	0.177	0.120	0.293	0.186	0.294	0.186
妻父・農林以外の自営業(基準:事務職)	_jwdada2	-0.135**	0.059	-0.134**	0.059	-0.187*	0.105	-0.186*	0.105
妻父・専門管理職	_jwdada3	-0.151**	0.064	-0.151**	0.064	-0.285**	0.113	-0.284**	0.113
妻父・事務販売職	_jwdada4	-0.205***	0.069	-0.205***	0.069	-0.391***	0.121	-0.390***	0.121
妻父・現場労働者	_jwdada5	-0.154**	0.068	-0.153**	0.068	-0.282**	0.117	-0.282**	0.117
妻父・無職	_jwdada6	-0.282*	0.145	-0.281*	0.145	-0.597**	0.245	-0.594**	0.245
夫母・パート(基準:無職)	_jhmom_1	0.121**	0.060	0.121**	0.060	0.163*	0.089	0.164*	0.089
夫母・常勤	_jhmom_2	0.082	0.063	0.082	0.063	0.029	0.092	0.029	0.092
夫母・自営業	_jhmom_3	0.078	0.048	0.078	0.048	0.044	0.083	0.044	0.083
妻母・パート(基準:無職)	_jwmom_1	0.260***	0.060	0.260***	0.060	0.153*	0.089	0.153*	0.089
妻母・常勤	_jwmom_2	0.266***	0.059	0.266***	0.059	0.270***	0.090	0.270***	0.090
妻母・自営業	_jwmom_3	0.213***	0.050	0.214***	0.050	0.165*	0.089	0.165*	0.089
有効求人倍率	yuiko	0.081**	0.038	0.081**	0.038	-0.038	0.061	-0.039	0.061
保育所定員率	hoiku	0.007***	0.002	0.007***	0.002	0.012***	0.004	0.012***	0.004
定数項	cons	1.801***	0.301	1.802***	0.301	1.876***	0.604	1.877***	0.604
$\rho$	rho	0.061**	0.030	0.075***	0.028	0.109**	0.051	0.112**	0.049
Log-likelihood		-5232.11		-5622.87		-1900.23		-1967.19	
サンプル数		5534		5534		2073		2073	
$\chi^2$ 検定量( $H_0: \rho=0$ )		4.060**		7.379***		4.516**		5.177**	

(注)1. \*, \*\*, \*\*\* はそれぞれ10%, 5%, 1%の有意水準で有意。



表3 同居選択モデル(Multinomial Logit 推定)

	25~49歳		25~49歳		25~34歳		25~34歳	
	同居 係数	標準偏差	同居 係数	標準偏差	同居 係数	標準偏差	同居 係数	標準偏差
(夫方同居/別居)								
妻の現在年齢	-0.057 ***	0.017	-0.061 ***	0.015	-0.022	0.038	-0.051	0.036
妻・高卒(基準:中卒)	-0.106	0.173	-0.114	0.152	-0.297	0.446	-0.218	0.439
妻・高専短大卒	-0.341 *	0.199	-0.234	0.176	-0.386	0.465	-0.315	0.455
妻・大卒以上	-0.524 **	0.254	-0.301	0.219	-0.764	0.531	-0.467	0.505
夫・高卒(基準:中卒)	0.317 **	0.160	0.180	0.142	0.489	0.337	0.666 **	0.333
夫・高専短大卒	0.386 *	0.223	0.529 ***	0.197	0.654	0.405	1.266 ***	0.392
夫・大卒以上	0.128	0.187	0.199	0.167	0.065	0.365	0.540	0.358
夫の現在年齢	0.007	0.014	0.017	0.013	0.074	0.024	0.070	0.023
夫の対数所得	-1.113 ***	0.100	-0.919 ***	0.093	-1.278 ***	0.198	-1.059 ***	0.192
子供数	0.042	0.065	0.165 ***	0.057	-0.159	0.165	0.046	0.156
子供数 × 0~2歳	0.143 **	0.071	-0.034	0.066	0.284 **	0.144	0.087	0.137
子供数 × 3~5歳	0.106 *	0.062	0.059	0.057	0.282 **	0.141	0.151	0.134
部屋数	0.618 ***	0.025	0.704 ***	0.025	0.749 ***	0.045	0.895 ***	0.049
都市	-0.325 ***	0.106	-0.513 ***	0.100	-0.251	0.195	-0.213	0.192
夫・長男	1.840 ***	0.119	1.146 ***	0.093	1.972 ***	0.234	1.241 ***	0.191
妻・長女(兄弟なし)	-0.403	0.287	-0.587 ***	0.215	0.142	0.424	-0.321	0.363
長男 × 長女(兄弟なし)	0.016	0.327	0.250	0.262	-0.469	0.480	0.045	0.424
夫・農林以外の自営業(基準:専務職)	0.085	0.140	-0.031	0.125	0.583 **	0.267	0.412	0.253
夫・農林以外の自営業(基準:専務職)	0.099	0.154	-0.077	0.139	0.359	0.283	0.243	0.272
夫・専門管理職	-0.048	0.168	-0.164	0.151	0.141	0.300	0.130	0.287
夫・専務販売職	-0.093	0.167	-0.242	0.152	-0.181	0.303	-0.177	0.290
夫・現場労働者	-0.433	0.303	-0.169	0.262	0.292	0.447	0.357	0.438
夫・無職	-0.312 **	0.139	-0.264 **	0.126	-0.393	0.259	-0.307	0.253
妻・農林以外の自営業(基準:専務職)	-0.462 ***	0.155	-0.384 ***	0.140	-0.630 **	0.284	-0.596 **	0.278
妻・専門管理職	-0.254	0.168	-0.044	0.151	-0.312	0.304	-0.104	0.295
妻・専務販売職	-0.171	0.162	-0.090	0.146	-0.151	0.284	0.015	0.277
妻・現場労働者	-0.176	0.329	-0.074	0.297	0.003	0.535	-0.053	0.543
妻・無職	-0.435 ***	0.161	-0.493 ***	0.143	-0.535 **	0.246	-0.471 **	0.231
夫母・パート(基準:無職)	-0.084	0.155	-0.028	0.140	-0.085	0.231	0.024	0.219
夫母・常勤	0.186	0.119	0.108	0.106	-0.052	0.209	0.022	0.199
夫母・自営業	-0.289 *	0.156	-0.277 **	0.137	-0.102	0.244	-0.230	0.228
妻母・パート(基準:無職)	-0.202	0.151	-0.335 **	0.136	0.160	0.236	0.035	0.222
妻母・常勤	-0.110	0.126	-0.021	0.111	0.011	0.232	0.033	0.221
妻母・自営業	0.300 ***	0.092	0.464 ***	0.083	0.366 **	0.160	0.404 ***	0.151
有効求人倍率	-0.006	0.005	-0.004	0.005	-0.020 **	0.009	-0.017 *	0.009
保育所定員率	0.247 **	0.102	0.285 ***	0.089	0.279 *	0.166	0.297 *	0.159
妻・就業	2.479 ***	0.699	1.583 **	0.641	-0.474	1.516	-1.055	1.461
定数項								
(妻方同居/別居)								

妻の現在年齢	0.000	0.027	-0.007	0.021	0.020	0.061	-0.007	0.052
妻・高卒(基準:中卒)	0.618 **	0.304	0.526 **	0.226	-0.292	0.654	-0.410	0.548
妻・高専短大卒	0.808 **	0.336	0.749 ***	0.254	0.124	0.678	-0.155	0.572
妻・大卒以上	0.632	0.413	0.655 **	0.309	0.079	0.799	0.211	0.654
夫・高卒(基準:中卒)	-0.476 **	0.223	-0.423 **	0.180	-0.410	0.398	-0.136	0.364
夫・高専短大卒	-0.883 **	0.344	-0.527 *	0.273	-1.050 *	0.567	-0.272	0.488
夫・大卒以上	-0.882 **	0.281	-0.518 **	0.219	-1.803 ***	0.504	-1.129 ***	0.438
夫の現在年齢	-0.048 **	0.024	-0.022	0.018	0.033	0.036	0.025	0.032
夫の対数所得	-0.905 ***	0.149	-0.646 ***	0.125	-1.067 ***	0.291	-0.749 ***	0.260
子供数	0.017	0.102	0.156 **	0.078	-0.208	0.266	0.108	0.223
子供数×0~2歳	0.022	0.111	-0.129	0.092	0.222	0.231	0.060	0.193
子供数×3~5歳	0.085	0.097	0.008	0.078	0.138	0.225	0.130	0.186
部屋数	0.582 ***	0.036	0.637 ***	0.031	0.774 ***	0.065	0.849 ***	0.062
市部	-0.456 **	0.162	-0.495 ***	0.134	-0.531 *	0.283	-0.344 **	0.256
夫・長男	-0.171	0.189	-0.092	0.135	-0.504 **	0.334	-0.532 **	0.270
妻・長女(兄弟なし)	2.187 ***	0.189	1.650 ***	0.162	1.866 ***	0.349	1.425 ***	0.310
長男×長女(兄弟なし)	-1.087 ***	0.306	-0.956 ***	0.258	-0.356	0.491	-0.277	0.435
夫父・農林以外の自営業(基準:事務職)	-0.320	0.217	-0.371 **	0.172	0.091	0.408	-0.024	0.356
夫父・専門管理職	-0.546 **	0.247	-0.513 ***	0.191	0.133	0.437	0.073	0.381
夫父・専務販売職	-0.056	0.244	-0.142	0.197	0.407	0.437	0.281	0.387
夫父・現場労働者	-0.048	0.243	-0.204	0.199	0.007	0.442	0.128	0.378
夫父・無職	-1.273 **	0.651	-0.284	0.375	-0.709	0.882	-0.117	0.667
妻父・農林以外の自営業(基準:事務職)	-0.118	0.228	-0.247	0.172	-0.380	0.418	-0.360	0.350
妻父・専門管理職	-0.037	0.241	-0.268	0.188	0.147	0.420	-0.146	0.368
妻父・専務販売職	0.167	0.251	-0.119	0.203	0.366	0.446	0.124	0.397
妻父・現場労働者	-0.234	0.265	-0.246	0.204	-0.397	0.469	-0.370	0.397
妻父・無職	-0.445	0.647	-0.316	0.455	-0.057	0.901	-0.105	0.768
夫母・パート(基準:無職)	-0.040	0.228	-0.310 *	0.188	0.158	0.352	0.104	0.303
夫母・常勤	-0.246	0.252	-0.182	0.196	0.216	0.357	0.342	0.304
夫母・自営業	-0.407 **	0.190	-0.464 ***	0.147	-0.599 *	0.363	-0.525 *	0.310
妻母・パート(基準:無職)	-0.412 *	0.249	-0.397 **	0.200	-0.717 *	0.397	-0.746 **	0.339
妻母・常勤	-0.140	0.220	-0.197	0.180	-0.316	0.355	-0.395	0.311
妻母・自営業	0.020	0.196	0.146	0.151	0.089	0.355	0.116	0.303
有効求人倍率	0.096	0.144	0.358 ***	0.115	0.038	0.249	0.141	0.214
保育所定員率	-0.003	0.008	-0.006	0.006	-0.018	0.014	-0.023 *	0.012
妻・就業	0.002	0.159	0.071	0.123	0.297	0.259	0.309	0.223
定数項	1.726	1.062	-0.204	0.869	-0.186	2.283	-1.121	2.013
Log-likelihood	-2417.24	-3222.07	-843.204	-992.887				
サンプル数	5534	5534	2073	2073				
擬似決定係数	0.354	0.310	0.410	0.390				

(注)1. \*, \*\*, \*\*\* はそれぞれ10%, 5%, 1%の有意水準で有意。

付表1 妻の就業選択: 子供のいる25歳以上有配偶女性(自営業就業者は除く)

	全年齢			妻・35歳未満			妻・35歳以上		
	Coef.	z	P> z	Coef.	z	P> z	Coef.	z	P> z
(妻・パート)									
妻の現在年齢	0.029 *	1.65	0.10	-0.007	-0.14	0.89	0.044 *	1.89	0.06
妻の現在年齢 <sup>2</sup>	0.005	0.34	0.73	0.054 *	1.76	0.08	-0.010	-0.57	0.57
夫の対数所得	-0.729 ***	-5.52	0.00	-1.306 ***	-4.72	0.00	-0.596 ***	-3.85	0.00
夫の労働時間	0.006 *	1.71	0.09	0.022 **	2.81	0.01	0.002	0.50	0.62
妻・高卒	0.021	0.12	0.90	0.183	0.38	0.71	-0.006	-0.03	0.98
妻・高専短大卒	-0.347 *	-1.78	0.07	-0.159	-0.31	0.76	-0.379 *	-1.73	0.08
妻・大卒以上	-0.688 **	-2.62	0.01	0.140	0.22	0.83	-0.964 ***	-3.26	0.00
夫・高卒	0.054	0.34	0.74	0.500	1.23	0.22	-0.034	-0.19	0.85
夫・高専短大卒	-0.241	-1.01	0.32	0.235	0.47	0.64	-0.336	-1.17	0.24
夫・大卒以上	-0.279	-1.51	0.13	-0.015	-0.03	0.97	-0.294	-1.40	0.16
市部	-0.009	-0.08	0.94	-0.216	-0.91	0.36	0.059	0.41	0.68
有効求人倍率	0.306 ***	3.18	0.00	-0.186	-0.99	0.32	0.515 ***	4.48	0.00
保費所定員率	0.002	0.41	0.68	0.038 **	3.25	0.00	-0.010	-1.52	0.13
子・3歳未満	-2.163 ***	-7.85	0.00	-2.221 ***	-6.00	0.00	-3.858 ***	-4.29	0.00
待機児童率	-0.009	-1.13	0.26	-0.007	-0.35	0.73	-0.012	-1.31	0.19
3歳未満×待機率	-0.070 **	-2.08	0.04	-0.069 *	-1.66	0.10	0.068	1.25	0.21
子・3~5歳	-1.134 ***	-7.76	0.00	-1.003 ***	-4.12	0.00	-1.290 ***	-6.23	0.00
夫の親と同居	0.253 **	2.26	0.02	0.084	0.37	0.71	0.274 **	2.05	0.04
妻の親と同居	0.130	0.80	0.43	0.099	0.26	0.80	0.003	0.02	0.99
定数項	2.573 ***	2.94	0.00	4.086 ***	2.02	0.04	2.097 *	1.90	0.06
(妻・常勤)									
妻の現在年齢	0.097 ***	5.42	0.00	0.092 **	2.24	0.03	0.085 ***	3.54	0.00
妻の現在年齢 <sup>2</sup>	-0.019	-1.29	0.20	-0.032	-1.12	0.26	-0.020	-1.07	0.28
夫の対数所得	-1.398 ***	-10.87	0.00	-1.366 ***	-5.64	0.00	-1.395 ***	-8.97	0.00
夫の労働時間	0.004	1.15	0.25	0.002	0.25	0.80	0.004	0.89	0.37
妻・高卒	0.419 **	2.26	0.02	1.934 **	2.37	0.02	0.337 *	1.67	0.10
妻・高専短大卒	0.590 **	2.84	0.01	2.207 **	2.67	0.01	0.462 *	1.97	0.05
妻・大卒以上	1.254 ***	5.19	0.00	3.304 ***	3.85	0.00	0.871 ***	3.15	0.00
夫・高卒	-0.025	-0.15	0.88	0.000	0.00	1.00	-0.047	-0.24	0.81
夫・高専短大卒	-0.220	-0.94	0.35	-0.339	-0.76	0.45	-0.150	-0.52	0.60
夫・大卒以上	-0.397 **	-2.09	0.04	-0.464	-1.18	0.24	-0.330	-1.48	0.14
市部	-0.425 ***	-3.77	0.00	-0.450 **	-2.25	0.02	-0.397 ***	-2.87	0.00
有効求人倍率	0.169 *	1.81	0.07	0.160	0.96	0.34	0.228 **	1.98	0.05
保費所定員率	0.031 ***	5.66	0.00	0.033 ***	3.36	0.00	0.028 ***	4.27	0.00
子・3歳未満	-1.317 ***	-6.51	0.00	-1.153 ***	-3.50	0.00	-1.332 ***	-3.34	0.00
待機児童率	0.000	0.03	0.98	0.020	1.15	0.25	-0.004	-0.42	0.67
3歳未満×待機率	0.032 **	2.11	0.04	0.018	0.80	0.42	0.022	0.65	0.52
子・3~5歳	-0.765 ***	-5.24	0.00	-0.673 **	-2.45	0.01	-0.849 ***	-4.47	0.00
夫の親と同居	0.838 ***	7.98	0.00	1.040 ***	5.56	0.00	0.755 ***	5.79	0.00
妻の親と同居	0.614 ***	4.06	0.00	1.469 ***	5.49	0.00	0.238	1.31	0.19
定数項	3.978 ***	4.63	0.00	2.482	1.34	0.18	4.624 ***	4.14	0.00
Log-Likelihood	-3248.4			-891.044			-2313.78		
Number of obs	3715			1337			2378		
Pseudo R2	0.1498			0.1751			0.1038		

付表2 妻の就業選択:子供のいる25歳以上有配偶女性(自営業含む)

		全年齢		
		Coef.	z	P> z
(妻・パート)	1			
妻の現在年齢	w_age	0.028	1.59	0.11
夫の現在年齢	h_age	0.006	0.38	0.71
夫の対数所得	lhinc	-0.720 ***	-5.45	0.00
夫の労働時間	hwhour	0.006 *	1.69	0.09
妻・高卒	_lwedu_2	0.016	0.10	0.92
妻・高専短大卒	_lwedu_3	-0.347 *	-1.78	0.07
妻・大卒以上	_lwedu_4	-0.683 **	-2.60	0.01
夫・高卒	_lhedu_2	0.065	0.41	0.69
夫・高専短大卒	_lhedu_3	-0.238	-0.99	0.32
夫・大卒以上	_lhedu_4	-0.274	-1.48	0.14
市部	city	-0.018	-0.14	0.89
有効求人倍率	yuko	0.303 ***	3.15	0.00
保育所定員率	hoiku	0.002	0.41	0.68
子・3歳未満	_lkids012_1	-2.167 ***	-7.86	0.00
待機児童率	taiki0	-0.009	-1.14	0.25
3歳未満×待機率	_lkidXtaik~1	-0.069 **	-2.08	0.04
子・3~5歳	kids345	-1.134 ***	-7.77	0.00
夫の親と同居	_lcorr_1	0.250 **	2.25	0.03
妻の親と同居	_lcorr_2	0.129	0.79	0.43
定数項	cons	2.552 ***	2.92	0.00
(妻・常勤)	2			
妻の現在年齢	w_age	0.096 ***	5.41	0.00
夫の現在年齢	h_age	-0.019	-1.29	0.20
夫の対数所得	lhinc	-1.395 ***	-10.88	0.00
夫の労働時間	hwhour	0.004	1.03	0.30
妻・高卒	_lwedu_2	0.418 **	2.26	0.02
妻・高専短大卒	_lwedu_3	0.602 ***	2.90	0.00
妻・大卒以上	_lwedu_4	1.284 ***	5.33	0.00
夫・高卒	_lhedu_2	-0.002	-0.01	0.99
夫・高専短大卒	_lhedu_3	-0.206	-0.89	0.38
夫・大卒以上	_lhedu_4	-0.387 **	-2.04	0.04
市部	city	-0.432 ***	-3.85	0.00
有効求人倍率	yuko	0.163 *	1.75	0.08
保育所定員率	hoiku	0.031 ***	5.68	0.00
子・3歳未満	_lkids012_1	-1.322 ***	-6.53	0.00
待機児童率	taiki0	0.000	0.04	0.97
3歳未満×待機率	_lkidXtaik~1	0.032 **	2.10	0.04
子・3~5歳	kids345	-0.763 ***	-5.24	0.00
夫の親と同居	_lcorr_1	0.841 ***	8.03	0.00
妻の親と同居	_lcorr_2	0.610 ***	4.05	0.00
定数項	cons	3.989 ***	4.65	0.00
(妻・自営業)	3			
妻の現在年齢	w_age	0.098 ***	2.13	0.03
夫の現在年齢	h_age	0.009	0.24	0.81
夫の対数所得	lhinc	-1.475 ***	-5.39	0.00
夫の労働時間	hwhour	0.017 *	1.67	0.09
妻・高卒	_lwedu_2	0.495	1.10	0.27
妻・高専短大卒	_lwedu_3	0.556	1.07	0.29
妻・大卒以上	_lwedu_4	1.838 ***	3.26	0.00
夫・高卒	_lhedu_2	0.009	0.02	0.98
夫・高専短大卒	_lhedu_3	-0.048	-0.08	0.94
夫・大卒以上	_lhedu_4	0.031	0.07	0.95
市部	city	-0.662 **	-2.60	0.01
有効求人倍率	yuko	0.008	0.03	0.97
保育所定員率	hoiku	0.012	0.88	0.38
子・3歳未満	_lkids012_1	-1.444 **	-2.24	0.03
待機児童率	taiki0	-0.017	-0.80	0.42
3歳未満×待機率	_lkidXtaik~1	-0.021	-0.29	0.77
子・3~5歳	kids345	-1.008 **	-2.54	0.01
夫の親と同居	_lcorr_1	1.185 ***	4.54	0.00
妻の親と同居	_lcorr_2	1.292 ***	4.07	0.00
定数項	cons	0.816	0.41	0.68
Log-Likelihood		-3631.87		
Number of obs		3804		
Pseudo R2		0.144		